

2024年度
第24回
さわやかジュニア大会
大会規定

さわやかジュニア連盟

第24回 さわやかジュニア大会 大会規定

1. 大会

- ① 朝霞市・志木市・新座市・和光市の四市内に在籍する少年野球チームの小学四年生以下の男女とする。
- ② 大会参加費は各チーム5,000円とし、代表者会議当日に納付とする。
- ③ 大会は予選ブロック・トーナメント、決勝トーナメント方式で行う。
- ④ 開会式は行わない。閉会式は表彰式のみを行う。
- ⑤ 大会参加全チームにより抽選を行い、予選ブロック組合せを決定する。
- ⑥ 試合の全般的なルールは、原則として「公認野球規約・学童の部」を採用するが、別にさわやかジュニア野球連盟の特別規則、及び各グラウンド毎のローカルルールを適用する。
- ⑦ 大会運営、および大会中の問合せ・確認等については、ブロック責任者に行う。
- ⑧ 四市以外のチームの参加については、連盟の許可を得て参加とする。

2. 表彰

- ① 優勝チーム 『さわやかジュニア大会』優勝旗
「優勝カップ」「賞状」及び、「金メダル」15個
- ② 準優勝チーム 「準優勝カップ」「賞状」及び、「銀メダル」15個
- ③ 3位(2)チーム 「第3位カップ」「賞状」及び、「銅メダル」15個

3. 登録名簿

- ① 大会選手登録は25名以内とし、登録名簿を3部作成し提出し、抽選会当日に大会連盟印の押印後、1部をチームの控えとする。
- ② 「選手登録名簿」1部をチーム保管として会場に必ず持参し、試合開始前に相互交換する。
- ③ 登録時点でチーム編成が出来ない場合には、同一市町村の9名未満の複数チームが統合して出場する事を認める。合同チームと呼ぶ。
- ④ 合同チームに於いて、ユニフォームは混在でも構わないが背番号は連番とする。

4. チームの義務

- ① 会場となるグラウンドの使用は利用方法を順守し、試合終了後はグラウンド整備をすること。
- ② 閉会式は上位4チームが参加し、プラカードを持参すること。
- ③ 大会本部は投球数カウント測定等の為、サポート要員の派遣を対戦相互チームに要請した場合は対応する事。

5. 審判に関する確認事項

- 大会要綱による参加チームの相互審判制度を採用する。
- ① 決勝トーナメントでは本連盟審判部より、準決勝戦：主審、決勝戦：四審判員の派遣を行う。
 - ② 1チーム2名のチーム審判員を派遣すること。(チームが棄権した場合も必ず派遣のこと)
 - ③ 審判員は、審判服、及び審判帽の着用を義務付ける。
 - ④ 審判員は、試合開始時刻の30分前に集合すること。
 - ⑤ 最終試合の審判員は、グラウンド整備をして帰るようお願いします。

- ⑥ 当日の朝、雨天等による決行、又は中止の判断について
対戦開始予定時間の2時間前までに
(ア)1回戦～3回戦:対戦当該チーム相互にて協議し実施の有無を決定する。
(イ)準決勝・決勝戦:大会本部、及び当該チームにて協議し実施の有無を決定する。
- ⑦ グラウンドに集合した後での雨天等による中止、又は続行の判断は、担当の審判員とグラウンド責任者が合議で決定する。
試合途中の場合は、両チームの監督の意見を聴取してはならない。
- ⑧ 審判員は、必ず当該グラウンド責任者にグラウンドルールを確認し、両チームの監督に伝え徹底する。
- ⑨ 審判は、組合せ表の若番が主審・二塁、老番が一塁・三塁とする。
(相互チームの相談により、担当位置の交代は可能)

6. 野球場について

- ① 野球場については、小学校の場合は諸々の障害物があり、広さも一様ではないため、各会場毎にローカルルールを採用する。
但し、基本的なグラウンド寸法については、正確にラインを引くこととする。
- ② グラウンド責任者は、グラウンドについての諸注意が有る場合(ローカルルールを含む)は、その内容を試合前に担当審判員に伝える。
- ③ ファウルラインは出来るだけ長く引く。
- ④ ファウルラインが障害物を避けて引いてある場合、審判員は試合前に確認し、両チームの監督にも説明を行う。
- ⑤ グラウンドにロープが張ってある場合、特にベース付近では危険防止の為ロープを埋めるなどの処置をして安全を期する。

7. 競技運営に関する確認事項

- ① 連盟の規定、及び大会規則を遵守し、大会運営を円滑に進行させる。
- ② 大会中の連絡は、大会責任者に連絡のこと。
- ③ [グラウンド規格]
 - *塁間距離 21メートル
 - *投手板から本塁までの距離 14メートル
- ④ イニングと試合時間 5イニング 若しくは 1時間30分
- ⑤ 試合球 KENKOボールJ球を使用。 2個ずつ提出する。
- ⑥ [選手登録]
 - *登録選手と登録 25名以内、4年生まで
 - *ユニフォームと背番号 監督:30、コーチ:29・28
選手:主将10、0～27までとする
- ⑦ 点差によるコールドゲーム
 - 3回 15点
 - 4回 10点
- ⑧ 同点の場合
同点の場合、5回終了時、若しくは試合開始90分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
サドンデス方式(2イニングまで)で勝敗を決定する。
【サドンデス方式 (全日本軟式野球連盟 延長戦に関するルール)】
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、順次前の打者を2塁走者・3塁走者として無死満塁の状態最大2イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。

- ⑨ 勝敗が決しない場合
 - (ア)1回戦～準決勝戦:選手9人による、くじ(じゃんけん等)にて勝敗を決定する
 - (イ)決勝戦:サドンデス3イニング目を行い、それでもなお勝敗が決しない場合は両チーム優勝とする。
- ⑩ 「60球投球規制」を採用(当該打者が出塁、又はバッターアウトになるまでの投球は可)します。
- ⑪ 申告敬遠制度を採用します。
- ⑫ 試合の成立は、両チームが均等に3回終了、若しくは試合時間が60分を経過した時点。
試合途中の降雨・雷、又は日没で中止した場合、これを基準にコールドゲームを宣言する。
- ⑬ 試合開始時刻は指示された時間を厳守し、集合は試合開始30分前とする。
- ⑭ ベンチ(石灰で明示された)内に入るのは、監督(背番号30番)・コーチ(背番号28・29番)
 - *代表・スコアラーの5名、及び登録された選手(主将10番を含む0番から27番)のみとする。
 - *監督・コーチ(28・29)・代表・スコアラー以外のコーチや父兄のベンチ入りを禁止します。
 - 監督(30)不在の時は、29番又は28番のコーチが監督を代行する。
 - 但し、試合前に審判に届ける事。
- ⑮ インフィールドルールを採用する。
- ⑯ ベンチは組合せ表の若番が1塁側、老番が3塁側とする。
但し、公式球場では大会本部の指示に従う。
- ⑰ 父兄の応援席はベンチより外野側とする(ベンチ後方は禁止、但しグラウンド状況により判断)。
- ⑱ 指導者、及び応援席の父兄による相手選手へのヤジは、内容を問わず禁止する。
誘いボーク等、選手を惑わす言動があった場合は、一度目は注意、二度目は監督退場とする。
- ⑲ ランナーは、ホームイン後ベンチ入りするまでベースコーチ、次打者との接触は一切禁止する。(ハイタッチ等) (罰則規定①項)
- ⑳ 小学校では、全面「禁煙」です。グラウンド責任者の指示に従って下さい。

8. ルールの確認について

- ① 投手の牽制球について
 - 投手の牽制球が悪送球等により送球がボールデットラインを越えた場合
⇒投手がプレートを踏んでいる・いないに関わらず、走者にワンベースの進塁権を与える。
- ② ランダムプレーについて
 - ランダムプレー中に悪送球等により送球がボールデットラインを越えた場合
⇒その走者がそのプレーが行われる直前に占有していた塁を基準として、走者に2ヶの進塁権を与える。
- ③ ボークについて
 - ボークは、1回目は注意とし、それ以降は各審判の判断とする。
 - 但し、明らかにボークの場合はこの限りではない(1回目からボーク)。
 - (解説) 例えば、
 - (1)送球の際に方が動いた、あるいはセットポジションの際静止がない…等
⇒1回目は注意とする。
 - (2)投球動作に入ってからボールを落とした、あるいは投球動作を中止した…等
⇒ただちにボークを宣言する。
- ④ タイムについて
 - 監督が同一イニングに同一投手を2回呼ぶか、伝令を使うか、捕手又は他の選手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。

但し、他の位置に就く事は許される。

尚、他の守備位置に就いた場合は、同一イニング内に再び投手に戻れる。

- ⑤ 捕手を含む内野手が1試合に投手の所に行ける回数は3回までとする。
(但し、監督と共に言った場合は除く)
尚、延長戦(特別延長戦)になった場合は、2イニングス1回とする。
- ⑥ 監督の指示はグラウンドに出て指示する事ができる。監督はマウンドへの行帰りは小走りでスピーディーに行う。
- ⑦ ナチュラルカーブについて
1度目の注意で治らない場合は、投手交代とする。
- ⑧ ボールデットライン付近の飛球を捕球した場合について
(1)野手の捕球位置が片足でもボールデットラインを越えてしまった場合は、捕球とみなされずファールボールとする。
(2)ラインの内側で捕球後、勢いでボールデットラインを越えてしまった場合はインプレーとし通常の野球規則を適用する。飛球をラインの内側で捕球後、ラインを越えて倒れ込み送球動作が不可能になった場合は、打者はアウト、走者はその位置を基準として各走者に1個の塁が与えられる。
- ⑨ 試合中に雷が発生した場合の処置
連盟役員・審判員は、直ちに試合を中止して全員を避難させる。尚、遠くに雷が発生した場合でも、状況を判断して危険のない場所に避難させること。
木製バットによる試合継続は禁止とする。(試合成立は、7⑫に規定)
- ⑩ 投手の準備投球は、初回(救援を含む)に限り7球以内(1分を限度とする)、次回より3球以内とする。同一投手の再登板は5球以内とする。

9. 特別注意事項

- ① 試合開始前のノックはシートノックのみとする。ノックするコーチは必ずユニフォームを着用とする。
- ② バッティンググローブは着用可。但しリストバンドは不可とする。
- ③ 投手について手袋、サポーターなどの使用を禁止する。なお負傷等での包帯・テーピング等必要な場合は、試合前審判に申し出て許可を得る。
- ④ ウェーティングサークルにマスコットバット及び素振り用パイプ、リングは禁止とする。
- ⑤ 各市会場の基準のホームベースで行う。本球場など予めホームベースが固定されている場合は、そのベースを適用する。
- ⑥ ユニフォームのズボンはストッキングが3分の2以上見えるようにきちんとはく。
捕手は投手の準備投球も含め、防具を着用すること。(マスク・プロテクター・レガース・ヘルメット)、捕手用具は原則として2セット用意すること。
- ⑦ あまりにインターバルが長かったり、無用な牽制が度を過ぎるとペナルティーを課すことがある。(審判の判断による)(罰則規定①項)
- ⑧ 事故防止の為にキャチャーのファウルカップの着用を推奨します。
- ⑨ ベンチ指導者、及び選手のサングラス使用を許可します。

10. 罰則規定

- ① 各確認事項の条項に違反した場合は、次戦の試合の監督のベンチ入りを認めず、代理監督(登録された背番号29番、又は28番のコーチ)で試合を行う。

□ 補足

平成27年9月5日をもって施行する

令和3年10月10日 改訂

令和6年8月〇日 改訂